

田尻だより

平成 18 年

3月号

Vol. 36

次回の田尻便りは
4月発行予定!

暦も三月、日差しの

明るさに惑わされて外に出ると風はまだ冷たく、何だかだまされたような気になる今日このごろです。

田んぼの雪も溶け、農家の人たちはいよいよ十八年産米の作付けに動き始めます。雁音事務所も、にわか慌しくなってきました。

うちのさくらには、「オラム返し」をしません。「電車」と言っても「せんしゃ」と返さず、さくら語で返してきます。



〔田尻町最後のイベント〕

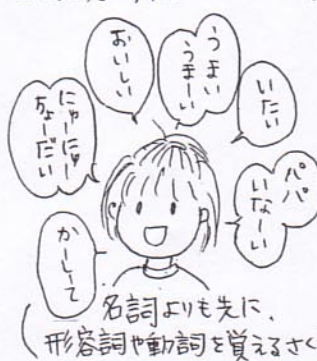
二月三日〜五日の三日間、田尻町ではラムサークル条約登録記念のイベント、ラムサークルフェスティバルが行われました。

色々な方の講演や討論会、幼稚園児の合唱、小学生や高校生による生き物調査の発表など、多くの催しが行われた中で、私の印象に残ったのは、東大の研究室の菊池さんという若い女性の発表でした。

彼女は、当初は田尻の雁にしか興味がなかったようですが、次第に田尻の人々そのものに惹かれ、心から田尻が好きになったそうです。

「自然回帰を謳う人はよく、昔は良かったと言いますが、田尻の人は、ここは良くなる、今までよりずっと」と、言うんです。素敵ですよ。彼女ののんびりとした言葉一つ一つで、様々な苦勞が報われるような気がしました。

一方で、自分の気持ちや意見を言葉は自分で覚え、使い分けます。彼女にとって、言葉はあくまで自己表現の手段なんでしょうか?



朱 暦 ~こめごよみ~

あと少しだけ
おまち下さい。



絵と文 / 小野寺ひかる

嫁日記

2月23日ごろから雁の北帰行が始まった、というニュースが流れました。今年は、は例年より1週間ほどシベリアに帰るのが遅いそうです。

ニュースによると、今年の北帰行が遅れた理由は、今年の大雪で中継地である秋田の八郎潟に雪がいつまでも残っ

っていたためとか。一体、雁たちはどうしたら秋田の雪の状況まで把握できるんだろう? 本当に、野生の本能にはいつも驚かされます

雁が飛び立つと、また半年間のお別れです。雁の大好きなさくらにとっては少しさびしい話ですが、来年も元気な姿を見せて、私たちが喜ばせてほしいものです